

～第63号の主な内容～

- 〈1面〉 2021年度以降の学生募集停止について
- 〈2面〉 SOPHIA 未来募金の使途 訃報 土田将雄初代校長
- 〈3面〉 社専ソフィア会
- 〈4面〉 新任教員紹介  
教員リレーコラム 他

# 社専だより



第63号 2019(令和元)年8月1日  
 編集・発行：上智社会福祉専門学校  
 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 TEL 03(3238)3021  
 ホームページアドレス <http://www.sophia-sw.jp>

## 上智社会福祉専門学校の二〇二一年度以降の学生募集停止について

学校法人上智学院 理事長 佐久間 勤  
 上智社会福祉専門学校 校長 高山 貞美



上智社会福祉専門学校は、一九六三年に上智大学社会福祉専修科として当時の厚生省から「社会福祉主事養成機関」として指定されたことにより、学校の歩みを開始しました。その後、課程の増設・改編を経ながら、保育士、社会福祉主事、児童指導員、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士といった社会福祉に係る専門職業人を育成すると同時に、本学院の教育精神である「他者のために、他者とともに」をモットーとし、キリスト教ヒュー

マニズムに基づく全人教育を通して、高い志を有する人材の育成に努めてまいりました。五〇余年の間に卒業生は五〇〇〇人を超え、児童相談所などの公的機関、社会福祉施設、医療関連施設など、たくさん卒業生が福祉のプロフェッショナルとして活躍されてきました。卒業生のご活躍が本校の評判を高め、夜間課程という厳しい環境にもかかわらず、熱意ある学習者が集まる場として、長く歴史を刻んできました。

しかしながら、皆様もご存知のとおり、社会福祉領域における教育の動向は近年大きく変化し、短期で資格取得が可能な通信教育の充実など、多様な養成機関が出現しています。日本の雇用環境も、多くの福祉系教育機関に影響を及ぼしました。その中で、本校は資格取得に必要な科目のみに拘らず専門職業人として求められる教養科目をも重視した特色ある教育を堅持してきましたが、直近の一〇年においても入学者の低迷が続いておりました。この間、たとえば介護福祉士科の夜間三年課程から昼間二年課程への改組、保育士科の他大学との連携による資格取得機会の拡大をはじめ

め、様々な改革を重ねてきましたが、これらの取り組みによっても志願状況が改善するには至りませんでした。これらの現状を踏まえ、専門学校の今後について慎重に検討した結果、二〇一九年五月二十九日開催の理事会において、二〇二〇年度入学者を最後とし、以後の学生募集を停止することを決定いたしました。

これまで本校の教育研究にご理解ご協力をいただいた皆様、卒業後も母校の支援に多大なご貢献を頂いた皆様に、改めて深く感謝申し上げます。歴史ある学校を閉じることは誠に残念で、まさに苦渋の決断ではありますが、何卒ご理解を賜りたく、お願いを申し上げます。今後については、二〇二〇年度の入学者は従来どおり受け入れ、卒業まで責任をもって教育・学生指導・就職支援を行ってまいります。また卒業生に関しても、卒業証明書等の発行や同窓会活動などに支障のないよう責任を持って対応いたします。

上智学院はイエズス会教育機関の使命として、これからも「他者のために、他者とともに生きる」人材を育てていくことに変わりありませんし、そして今後もソフィアファミリーの一員として卒業生を四谷の地でお迎えます。このたびの決定についてご理解を賜りますようお願い申し上げます。

二〇一九年七月一日

写真上 佐久間 勤 理事長  
 下 高山 貞美 校長

# SOPHIA未来募金の使途について (ご報告)

二〇一八年度に社専ソフィア会から頂いた、ソフィア未来募金についてのご報告です。なお、当該募金の一部は、『上智社会福祉専門学校 紀要』第一四号作成のためにも使われました。

## 保育士科の授業

保育士の資格を取得するための必修科目として「保育内容 言葉」の授業があります。この授業は、子どもの言葉の獲得の課程や、保育者が言葉の育ちをどのように捉え、働きかけるのか、などを学ぶ授業です。授業の中には、言葉の発達を支える教材研究も含まれます。

今年度の授業では「ソフィア未来募金」より募金の一部をパネルシアターの作成に使わせていただき、学生一人ひとりがパネルシアターを作成しました。授業で一生懸命作成し、六月二十四日(月)に、クラスで完成したパネルシアターの発表会を行いました。学生は、作成と合わせ演じ方も練習し、取り組みました。完成し、発表したパネルシアターを八月、九月の実習に持参し、実践する予定です。子どもの言葉、言葉の発達、保育者の関わりなどを意識した教材研究となりました。

保育士科 渡邊真理

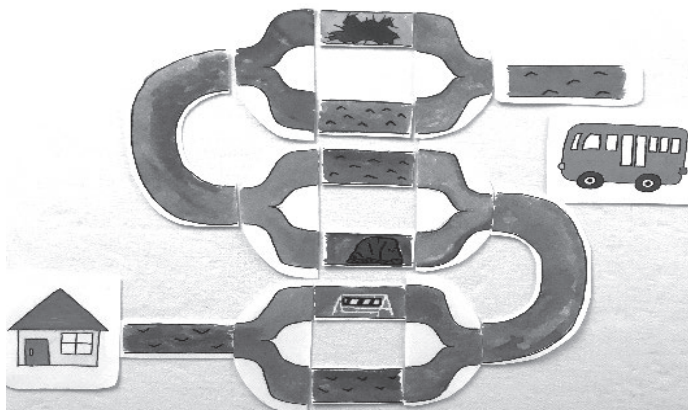


### 〈写真説明〉

上 パネルシアターの作成をする学生  
中 完成したパネルシアター「がたがたバス」  
下 同「おはようクレヨン」

## 介護福祉士科で 購入した物品

二〇一八年度のソフィア未来募金を活用させていただき、介護福祉士科の授業科目「生活支援技術G」(担当…桐原美保先生)で使用する、電子レンジと包丁を、購入させていただきました。



この科目は、介護福祉士として必要な、家庭生活における「自立した食事の介護」を学ぶもので、授業内容には、要介護状態の方への食事づくりも含まれます。

授業で使用する調理器具などは、年々古くなって行くので、買い換える事が必要でしたが、この度、募金を有効に活用させていただく事が出来ました。どうもありがとうございます。

介護福祉士科 三浦虎彦

## 【訃報】土田将雄初代校長が帰天されました

社専の初代校長で、上智大学第一〇代学長でもあった、土田将雄上智大学名誉教授(イエズス会司祭)が、二〇一八年一〇月二六日、老衰のため、東京都練馬区のロヨラハウスにて帰天されました。九五歳でした。謹んでお知らせいたします。



土田先生は一九六五年一〇月、上智大学社会福祉専修科第二代主任に就任、母母養成機関としての認可申請および上智社会福祉専修学校設立に尽力され、学校設立後の一九六六年四月から十二月まで、初代校長を務められました。

# 社専ソフィア会

社専ソフィア会第六代会長 木下裕支

## 社専ソフィア会

事務局 TEL&FAX : 03 - 3238 - 3027  
E-mail : syasensophiakai@honey.ocn.ne.jp



午後五時五十分、仕事を終えて教室にすべり込むと、九時までの間たくさん先生の熱い授業が展開される。九時三十分から十時三十分までサークル活動を行い、そのまましみち通りに流れ、終電まで続く福祉についての熱いバトル。社専で過ごした二年間は、私にとって人生の原動力であり、方向を指し示す大切な時間となりました。

私が福祉の世界に入ったきっかけは、一九七七年、高校二年生のときに参加した山梨県と栃木県にある知的障がい者の入所施設のボランティア活動でした。自分の住んで

いる地域では、障がいのある方と出会うことはほとんどなかったのですが、たいへんな衝撃を受けました。

その後、知的障がいのある方と一緒に働き、生活を共にしながらコミュニティをつくらせている「紅葉台ファミリー」や「ラルシュ・かなの家」と関わる中で、私も福祉の世界で生きていくという思いが強くなりました。

社専では、知識や技術、経験を積んでスキルを磨き、一日も早くプロとして活躍できるようにがむしやりに取り組んでいきましたが、一九八二年の三月に参加したフィリピン研修ツアーのスクラム街でのホームステイは、それからの私の人生を大きく変えていきました。

そこは、六畳間のスペースに十人以上の家族が生活しており、口に入れることのできる水がたいへん貴重で、健康面でも衛生面でも十分ではないため、日本で生活している自分には想像の出来ない体験でした。

しかし、一日がたち一日目が回ってくると、私たちの中にある変化が起こってききました。それは、貧しいスクラム街で生活している人たちの暖かさや明るさが、握手をして肩を組む中で肌を通して伝わってきたのです。安全で清潔で、いろいろな保障がある豊かな日本に暮らしているはずなのに、日本では得ることのできない命の輝きが、ともに生きていくという連帯感が私たちを変えていきました。そこには、フィリピンの人たちと同じような笑顔と優しさがあふれていたのです。

卒業後は福祉作業所に就職したのち、どのような障がいがあっても地域であたりまえに生きていくことが出来るまちづくりをめざし、精神障がいや重度の心身障がいのある方の福祉施設づくりに従事しました。

現在は、松戸市社会福祉協議会で地域福祉活動を推進するため、さまざまな地域福祉事業にチャレンジしています。

これからも社専ソフィア会を通じて、たくさん卒業生と出会い、交流を深める中で、これからの日本の福祉を見つめていきたいと思います。多くの方、皆様もぜひ当会にご参加くださいますようお願いいたします。

(第十七期生)

### 伝言板

■五期生の皆さま、来春、私は卒業五十年となります。五十年目の同期会開催は、いかがでしょうか。来春に、具体的なお知らせを送りたいと考えております。多くの方々の参加で楽しい時間を持てること、うれしく思います。有志代表・長澤 勲  
小川 寿子(旧姓 龍)  
鈍橋喜代子(旧姓 建部)  
連絡先・〇四五・六二一・四一三九(長澤)

### Sophia 示唆される「関わり」を願って

前会長 三浦 和行

会員の皆様には、日ごろは同窓会活動にご支援ご協力を賜り心より御礼申し上げます。

さて、この度平成三十一年(二〇一九年)三月三十一日をもって会長を退任いたしました。平成六年(一九九四年)の就任以来、二十四年余の永きにわたり職責を果たすことが出来ました。偏に皆様温かいご支援ご鞭撻の賜物と、深く感謝申し上げます。御礼申し上げます。永い間本場にありますがどうかごさいました。



### 2019年度総会を開催します

開催日程 9月28日(土)午後  
場所 上智大学6号館3階教室  
内容 ① 2019年度総会  
② 講演会と懇親会

今年度は保育士科の最終年度になります。講演会では、保育士科を中心とした社専の「今までとこれから」を、かかわりの深い先生方や卒業生に語っていただきます。

その後の懇親会は、2年半後の社専の閉校も見据えて、今後にどのように繋げていくかを自由に語り合う場にしたいと考えています。

詳しくは、同封の「2019年度総会のお知らせ」をご覧ください。多くの皆様のご参加をお待ちいたします。

今後は、木下裕支新会長の下で相談役として同窓会の発展に努めてまいります。

なお、突然の話で驚いておられますが、上智社会福祉専門学校の方も、五十六期生をもって閉校という風雲急を告げる動きで、同窓会も重要な判断をせまられることとなりますので、何卒皆様の変わりぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

私事ですが、仕事の方も定年退職後の再雇用で引き続き勤めております。しばらくは英気を養いながら生涯現役組を目指して有意義に過ごす方を思案するつもりでしたが、福祉現場は、いずこも同

じで人手不足の折なかな職場との縁が切れません。

福祉の仕事は、人が人に関わる営みであり、人の有り様が全てといえます。福祉の仕事は、ケアの関わりを通して、人が人として生きることが出来ることを学ぶことができるという意味で、とてもいい仕事です。その出発点となった上智社会福祉専門学校での「人間を尊重し、愛する」福祉の学び、先生方の指導や友と共に過ごした時間は決して忘れることはありません。

皆さんのいろいろな分野や考え方があり、それでいて一つの全体なのです。共に関わり合う、そのような同窓会の働きと関わりが続くことを願っています。

教員リレーコラム ⑩  
社専の今昔物語

保育士科 渡邊 眞理

今日も保育士科には多くの求人票が届いています。保育士不足と言われ続けている現在ですが保育士科では最後の学生が保育士資格の取得を目指し学びを深めています。

私が保育を志し社専に入学したのが三〇数年前になります。この長い時間の流れの中で大きく変わったものと全く変わっていない社専があります。正門、一号館、S J ハウス、クルトゥールハイムは以前と変わることなく同じ場所に、同じ建物で学生を迎えて学びを支えております。私は上智大学の購買部で働きながら社専に通っていました。購買部は紀伊國屋書店とセブンイレブンに代わり、社専の事務センターが入っていた上智会館、授業で主に使用していた六号館の建物はソフィアタワーの新六号館に建て替わり、二号館地下のピアノ室などは面影もなく新しい建物となりました。旧図書館が趣のあるラウンジになりました。三木図書館、上智会館のお御堂のクリスマスパーティーなど遠い昔のことのようにです。

多くの先生方の授業が走馬灯のようにかけめぐります。そして社専にいると少女だった私と出会います。私はどちらかというとまじめな学生ではなく六号館の掲示板に単位を落として貼りだされたような学生です。しかし、社専の学びが保育へと私を三〇年以上も誘い続けており、保育の探求も今現在まで続けています。保育の学びを社会福祉、対人援助の視点から理論と実践より学んだ社専及び保育士科がなくなることは本当に残念です。最後の二年間に私が母校に戻り後輩と共に学ぶことの意義とは何なのか問い続けながら来年度の三月を迎えます。

最後の保育士科の学生が「卒業しても先生に会えますか？」と今から問いかけてきます。「大丈夫よ」と答えています。どこで会えるかな。来年度の桜はどこで見るのかな。などと考えながら毎日四ツ谷の土手を見つめています。この四ツ谷の土手もずつと変わらず学生を見続けています。

保育士科は下を向いて歩んでいません。明るい未来の方へ向いています。

新任教員紹介



竹沢 昌子

本校は二〇二一年度をもって閉校することになりました。多くの福祉人材を輩出してきた本校がその幕を下ろす瞬間に向けて、近年の社会福祉をめぐる動向にますます強い関心をもつていきたいと思えます。最近、口笛を習い始めました。アンサンブルを楽しめるようになるのが目標です。どうぞよろしくお願ひします。

二〇一九年四月に社会福祉士・児童指導員科の教員として着任しました。主な担当科目は「相談援助の基盤と専門職」や「コミュニケーション技術」(介護福祉士科)です。



大石 恵子

社会福祉専門学校の介護福祉士科の専任教員として入職しました。看護師として様々な現場で働いた経験を、介護福祉士を目指す学生さん達の学びのお役に立てられるように頑張ります。趣味はリコーダーで、仲間とアンサンブルを楽しんでいます。

二〇一八年度  
国家試験の結果

二〇一八年度(二〇一九年一〜二月)に行われた、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の国家試験における、本校の合格者数および合格率は、左の表の通りです。全ての試験において、全国平均を上回る合格率となっております。

国家試験名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
社会福祉士国家試験	25名	21名	84.0%	29.9%
精神保健福祉士国家試験	76名	73名	96.1%	62.7%
介護福祉士国家試験	14名	13名	92.9%	73.7%

保育士科の閉科にともなって、みんなでつながる会(仮称)を開催します

- 日程 2020年2月末〜3月初旬の土曜日 13:30〜17:00の予定
- 場所 未定(上智大学四谷キャンパス内のどこか)
- 参加者 保育士(保母)科卒業生と関係者
- 内容 ① クラスメイトや先輩・後輩との旧交を温めましょう  
② なつかしい先生方に会えるかも・・・?  
③ その他
- 企画・主催 保育士科卒業生・在校生有志と担当教員による実行委員会  
協賛 社専ソフィア会(予定)

※ 実行委員募集

企画や事前準備、当日の会場運営等を担当していただける方を募集します。

連絡先: 江藤 久良良 etoo-k@sophia.ac.jp

渡邊 眞理 m-watanabe-4b6@sophia.ac.jp

